

第11課 行動する愛

【暗唱聖句】

「飢えている人に心を配り、苦しめられている人の願いを満たすなら、あなたの光は、闇の中に輝き出で、あなたを包む闇は、真昼のようになる」イザヤ 58:10

【日曜日・ただで買い求めよ】

「渴きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。銀を持たない者も来るがよい。穀物を求めて、食べよ。来て、銀を払うことなく穀物を求め、価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ」イザヤ 55:1

渴きを覚えている者は、お金が無くても皆来るが良いと招いています。そして「穀物を求めて、食べよ。来て、銀を払うことなく穀物を求め、価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ」と続きます。ただ与えられる、これこそ福音のメッセージです。しかし、ヘブル語の原文では、「穀物を買って求めて、食べよ」となっています。すぐあとに「銀を払うことなく穀物を求め」と続き矛盾していることから、新共同訳では「買い求めよ」という言葉が省いていますが、口語訳ではきちんと訳しだされている通り、「買って求めて食べよ」となっているのです。これは、神様ご自身が驚異的な代価を支払われたがゆえに、私たちはただで得ることができるということなのです。その代価とは、第一ペテロ 1:18、19 に次のように述べられています。

「知つてのとおり、あなたがたが先祖伝来のむなしい生活から贖われたのは、金や銀のような朽ち果てるものにはよらず、きずや汚れのない小羊のようなキリストの尊い血によるのです」第一ペテロ 1:18、19

神様は御子なるイエス様の命をもって、代価を支払って下さったのです。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです」エフェソ 2:8、9

イザヤの救いの理解は、新約聖書のパウロの理解と同じです。自分の力や行いではなく、すべて神様の恵みにより、信仰によって救われたのです。それは誰も誇ることがないためです。神様にのみ栄光をお返しするためです。

【月曜日・高い思い、高い道】

「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なると主は言われる。天が地を高く超えているように、わたしの道は、あなたたちの道を、わたしの思いはあなたたちの思いを、高く超えている。」55:8、9

神様の思いとは神様のご計画、神様の道とはそのご計画を行う手段や方法のことですが、それは私たちの思いや道とは異なり、遥かに高いと言います。人生において、私たちの思い通りにならないことが多いのは、これがためです。しかし、神様は私たちにより素晴らしいご計画と道を備えて下さっているのだと思うと、何と素晴らしいことかと思えます。思い通りにいかないと感じたときには、不平不満と述べるのではなく、より素晴らしいご計画の中にあることを信じ、喜ぶべきなのです。また、この御言葉は、次のような文脈の中で語られています。

「主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。神に逆らう者はその道を離れ、悪を行う者はそのたくらみを捨てよ。主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。わたしたちの神に立ち帰るならば、豊かに赦してくださる」イザヤ 55:6、7

つまり、神様の救いのご計画の中で語られていることなのです。私たちはこの世での幸せ、この世での成功にばかり目が向けられがちです。しかし、神様は永遠の御国へ私たちを救うために、ご計画を立てておられるのです。このことを忘れてはなりません。

【火曜日・偽りの断食】

「何故あなたはわたしたちの断食を顧みず、苦行しても認めてくださらなかったのか」イザヤ 58:3

イザヤ書 58 章には断食について書かれてあります。この断食は、レビ記 16:29 で「以下は、あなたたちの守るべき不変の定めである。第七の月の十日にはあなたたちは苦行をする…」と教えられているものです。苦行すると訳されている言葉が、断食を意味しており、7月10日は「大贖罪日」です。彼らは、贖罪日に断食するように教えられていました。断食とは、それに伴う肉体的苦痛を通して、深い罪の自覚と畏れをもって神に近づくことであり、熱心な祈りと悔い改めを表現する行為です。しかし、彼らはそれを自分たちの「信仰深さ」を見せびらかす行為としてしまい、「断食の日にしたい事をし、彼らのために労する人々を追い使い、断食しながら争いといさかいを起こ」（イザヤ 58:3, 4）す始末でした。それゆえ、そのような断食を神様は喜ばれず、顧みることもなかったのです。

【水曜日・真の断食】

「わたしの選ぶ断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて、虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え、さまよう貧しい人を家に招き入れ、裸の人に会えば衣を着せかけ、同胞に助けを惜しまないこと」58:6, 7

では、真の断食とはどのようなもののでしょうか。真の断食、真の犠牲とは弱い者に目を向け、助けてあげることです。本来断食をすることで、イエス様の犠牲的な愛と救いを感謝すると共に、飢えに苦しむ人の気持ちに理解と同情が生まれ、貧しい人に目を向けるようになるべきものだったのです。それは実際の断食よりも遥かに素晴らしいことなのです。イエス様は、『はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』（マタイ 25:40）と言われました。また、ヤコブは 1:27 「みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ること、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です」（ヤコブ 1:27）と、清く汚れの無い信仰とは、弱者を助けることによって表されるものであると語っています。

【木曜日・私たちの時間】

「安息日に歩き回ることをやめ、わたしの聖なる日にしたい事をするのをやめ、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日と呼び…」イザヤ 58:13

突然、断食の話が安息日の話に変わっているような印象を受けるかもしれませんが、これは断食を命じられていた贖罪日が、安息日だったからです。この中で安息日を自分がしたいことを止め、安息日を喜びの日と呼びなさいと教えられています。一見、したいことをしてはならないのであれば、喜びとは逆の日になりそうですが、14節では、「そのとき、あなたは主を喜びとする」（「その時あなたは主によって喜びを得」（口語訳））と書かれています。安息日が自己否定の日、弱者への奉仕の日となり、安息日を喜びの日と呼ぶとき、安息日の主であるイエス様の愛が本当によくわかり、イエス様によって喜びを得るのです。